

郷土紹介

多摩川の花火と川開き

二子玉川 会長 池田良夫
夏が近づくと、新聞が全国各地の山開き、海開きの便りを伝える。

多摩川の水が綺麗で水量も豊かであった頃は、絶好の水遊び場であった。

川開きの花火が行なわれる頃になると、川原に草花張りの小屋が並び、かき水の旗とおでんの匂いが、客を誘う風景がそこにあった。

貸ボートのペンキも新しく化粧され、水中には、監視の為の櫓があり、そこは子どもたちの飛び込みの場所でもあった。

両国の川開きが、終戦後で隅田川の花火として描かれるように、川開きと花火

多摩川に新しい堤防を

二子玉川 酒井博之
国が管理する一級河川である多摩川は、当然国有地であるが、全国でも珍しく堤防内に民有地が存在する、それが玉川一丁目である。

以前、このあたりは、兵庫島を中心とする、遊興の地で、川魚料理を供する店や食堂が並び、川辺には、屋形船を浮かべ、漁師が投網を取ったばかりの新鮮な鮎や川魚を、船上で食べさせていた。

当然、屋形船の乗り降りには、堤防は不便で、料亭にとっては景観を損なうことにもなり、営業上の死活の問題でもあった。

現在の堤防が、時代の流れの中で、その存在を失った。

は、切っても切れない関係とも言えるようだ。

多摩川の花火も、川開きと私鉄沿線の乗客へのサービスとして、下流から上流へと何度も行なわれ、「今年の丸子は何日だい？」など、かなり遠い人々をも川へ誘った。

六郷、丸子多摩川、二子、和泉多摩川（稲田堤）京王、府中、日野橋と東急、小田急、京王帝都の私鉄の鉄橋のある所を中心に、毎週行なわれていた。

二子玉川は、三業地があったので、料飲組合の客寄せとして行なわれた。

近年は、世田谷ふるさとまつりとして、又、川崎市制記念として三十万人以上の見物人を集めるイベントとなっている。

近年、地球温暖化が進み日本各地での、異常気象がもたらす集中豪雨や水害が頻発している。

昨年、隣の鉢田町で床上浸水の被害が出てしまった。

そこで、七十年ぶりに、多摩川の川岸に沿って二重となる暫定堤防を建設する準備を始めることになった。

高さ一米50センチから二米の仮堤を作るプランで、住民にとっては、大切な生命と財産を守る命綱である。

景観を損なうなどの反対もあるが、安心安全が第一、暫工の方向で合意されるだろう。（二子玉川町会長）



あゝ望郷

二子玉川 石原 勲
私は、真冬は零下40℃にもなる極寒の地、樺太、恵須取町（ロシア名サハリン州ウグレゴルスク）で生まれました。

そして、終戦になつたにも拘わらず、在俄なロシア軍の大爆撃にあい、逃げまわり、命からがら、着のみ着のままで、昭和23年7月、引揚船徳寺丸で函館港に引き揚げて来ました。

函館港に入港した時、大のおとな達が「帰ってきたぞー」と、手を取り合って号泣している姿を、まだ15歳の少年時代に見たその光景は、いまでも胸に焼きついて離れません。

わが故郷

「戦争ほど残酷なものはない。」
愚かな指導者たちに引き入れられた国民もまた、まことに哀れである。この偉人の言葉をそのとき誠に実感したものです。

それから、親戚を頼って世田谷区赤堤町に住み、大原町を経て、昭和61年12月に現在の玉川台に居を決め、今日に至っております。

用賀南町会の方々をはじめ近隣の皆様に大変親しくしていただき、用賀の地に住める幸せを満喫しています。なお、蛇足ですが、サハリンはロシアの極寒の地になってしまった由です。

スポーツ

今年の夏の行事

（用賀出張所より）

盆踊り

用賀くすのき公園

7月26日(水) 27日(木)

二子玉川地区ふれあい広場

(玉川三丁目高架下)

7月28日(金) 29日(土)

順田小学校

7月29日(土) 30日(日)

用賀小学校

8月18日(金) 19日(土)

ふるさと区民まつり(馬事公苑)

8月5日(土) 6日(日)

用賀サマーフェスティバル

用賀駅前イベント広場

8月20日(日)

多摩川花火大会

川崎市側記念

8月19日(土) 17時〜8時

納涼の夕べ(用賀いなか道)

8月21日(月) 14時〜8時



いよいよ夏休み……夏が来れば思い出す 遙かな尾瀬 遠い空……

今年の夏も、山に海に、色々とお出かけの計画をお持ちのことと思います。

私たちの町でも、駅前広場や学校校庭での夏まつりそして、馬事公苑の区民まつり、多摩川（川崎側）の花火大会等々、夏のイベントが続きます。

「家族で、又、お友達と楽しい夏をお過ごし下さい。」それにしても、石原さんのサハリンからの引き揚げ体験談は、過ぎし六十余年前の夏、あの戦争が終わった日、暑かった一日を思い起こさせます。（飯田）